

ごきげんよう。

こちらのPDFでは本編で話せなかった幾つかの補足を書かせていただきますわ。

■潜在意識

潜在意識は自分と他人の区別をつけられませんから、他人に対してケチるということは自分に対してケチをつけているのと同じですわ。

つまり「他人に施せない物は、自分にも施しを与えられない」わけですね。

あなたが他人に与えた物を、あなたは得ることができます。
だから仮に、あなたが最上級の扱いをされる事を望んでいたとしても、あなた自身が他人をぞんざいに扱っているのなら、あなたは他人から丁重に扱われることはありません。

こうした知識を話すと大抵の人は「じゃあ何であの金持ちは性格が悪いのに、他人から丁重に扱われているんだ？」とか「なぜあの人は性格が良いのに、他人からぞんざいに扱われているんだ？」という疑問が湧くはずですね。

これは当然の疑問ですね。

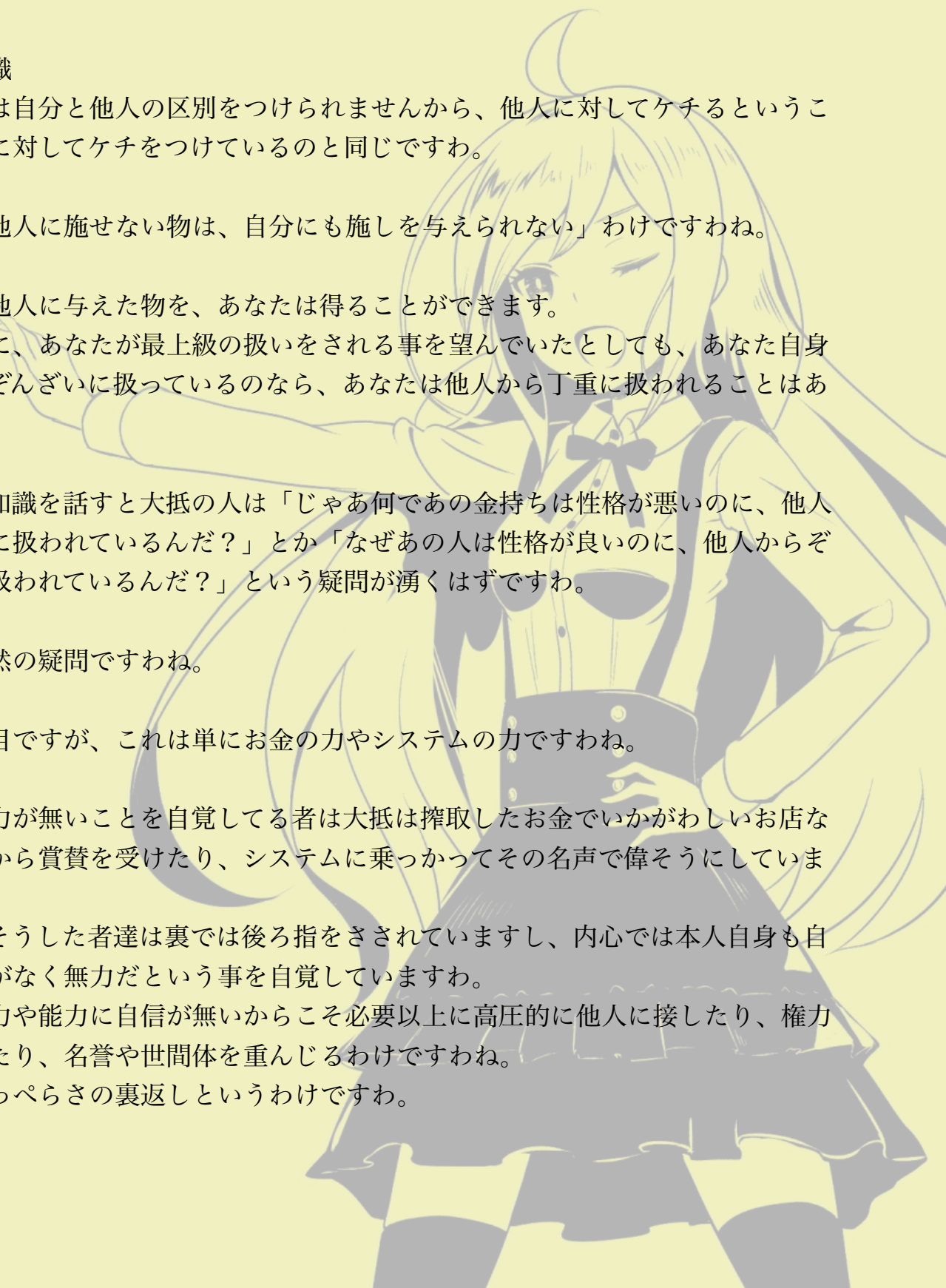
まず一つ目ですが、これは単にお金の力やシステムの力ですね。

自分に魅力が無いことを自覚してる者は大抵は搾取したお金でいかがわしいお店などで他人から賞賛を受けたり、システムに乗っかってその名声で偉そうにしていますわ。

けれど、そうした者達は裏では後ろ指をさされていますし、内心では本人自身も自分が魅力がなく無力だという事を自覚していますわ。

自分の魅力や能力に自信が無いからこそ必要以上に高圧的に他人に接したり、権力を行使したり、名誉や世間体を重んじるわけですね。

いわば薄っぺらさの裏返しというわけですね。



ただしこれらは表面上では丁重には扱われます。

性格が破綻していても金や組織の地位があれば、その力を使って相手をひれ伏させることも出来ますし。

どんなに自慢話が鼻につく人間でも、高級ホテルや高級レストランで大金を使う常連客であれば、いきなり暴れださない限りは最低限のレベルでは丁重に扱われるでしょう。

もちろん心の中では誰もその人を丁重には扱っていませんけどね。

それでもお金の力がありますから、よほどのやらかしをしないかぎりでは表面上は丁重に扱われるはずですわ。

続いて後者の疑問に関してですが、これは簡単ですわね。

「良い人だけどセルフイメージが低い」
これだけですわ。

こうした人は幼少期に親に能力を低く見積もられた事に起因するケースが多いですわね。

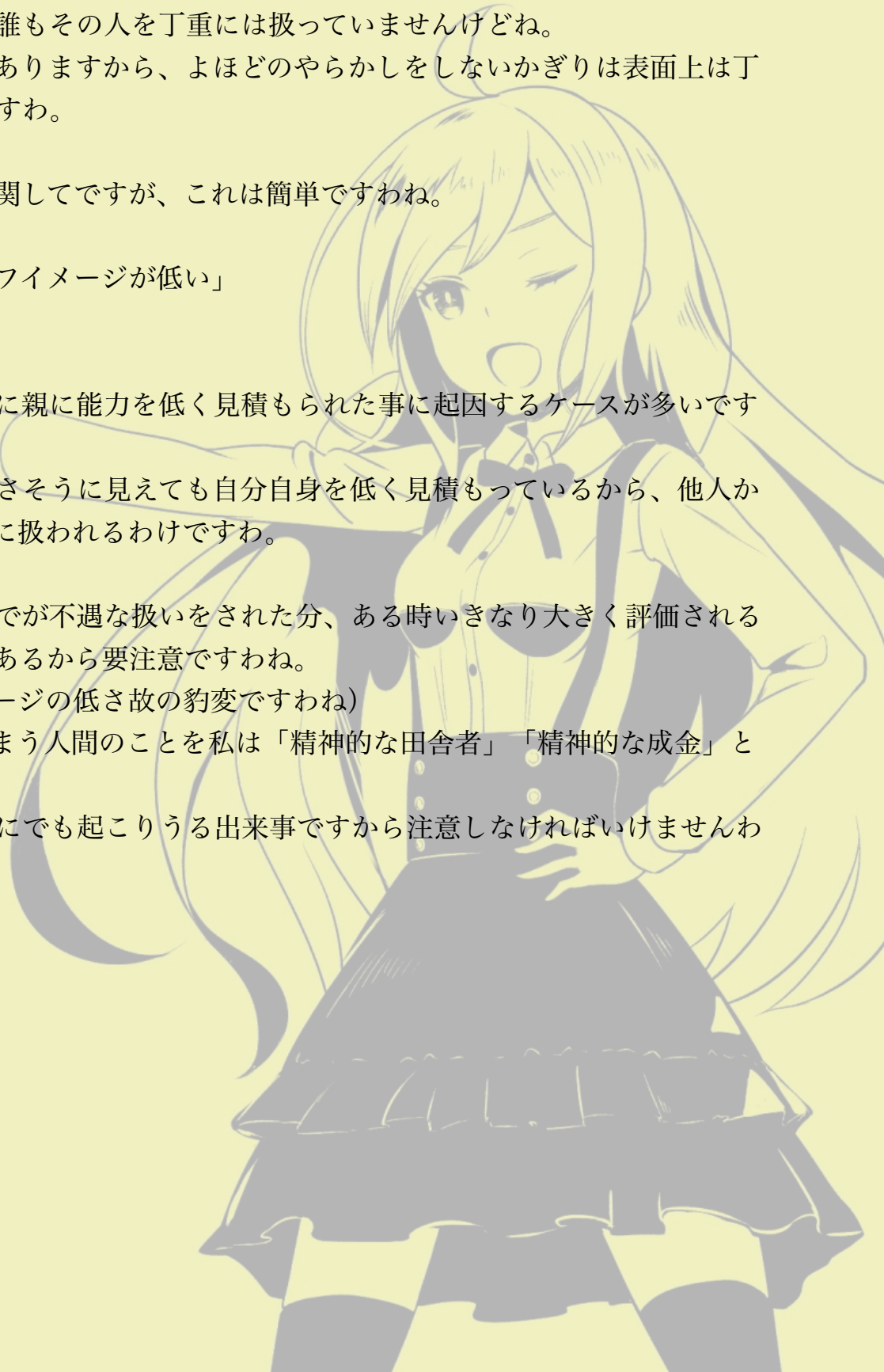
だから一見、人が良さそうに見えても自分自身を低く見積もっているから、他人から侮られてぞんざいに扱われるわけですわ。

こういった人は今までの不遇な扱いをされた分、ある時いきなり大きく評価されると豹変するケースもあるから要注意ですわね。

(これもセルフイメージの低さ故の豹変ですわね)

こうして豹変してしまう人間のことを私は「精神的な田舎者」「精神的な成金」と呼んでいますわ。

とはいえ、これは誰にでも起こりうる出来事ですから注意しなければいけませんわね。



■タダ乗りの怖さと危険性

世間では、社会システムや他人の知識、他人のノウハウ、他人に切り開いてもらった道を使い、我が物顔でタダ乗りをする人間がいますが、これも少し気をつけたほうがいい案件ですわね。

例えば自分は何も努力せずに物事にタダ乗りをしたり、面倒事を人に手配してもらったり、タダで物を得たり等。

こうした内容は一見すると得をしているように見えますが、これは潜在意識的にはマイナスに作用します。

なぜなら与えるという行為「ギブ・アンド・テイク」が成立していませんからね。

貰いっぱなしという行為は己のセルフイメージを著しく引き下げてしまいますわ。

例えばインターネットには素晴らしい才能を持った人たちが素敵な動画をアップロードする投稿サイトがいくつも存在していますが、素敵な作品に対して暖かなコメントやマイリストで応援する人がいる反面、上から目線で辛口な評価や乱暴な言葉を投げつける人たちもいます。

後者の人達ですが、これはギブ・アンド・テイクの観点からするとかなり危険な行為と言えますわ。

見る側は対価を払わずに良質な作品を得て、それでいて感謝や応援はせずにもしもマイナスの感情を投げつけたとしたら…これはセルフイメージにとっては由々しき事態です。

なぜなら、その視聴者が投げつけた心無い言葉の影響を一番強く受けるのは、他でもない、投げつけた視聴者本人だからです。

私はこれを「乞食のメンタリティ」とよんでいますわ。

与える行為を忘れて貰い続けると、この乞食のメンタリティが強くなっていきます。

乞食のメンタリティが強くなると、その人自身のカリスマが色あせ、能力や感性が低くなり精神力も弱くなり、性格が悪くなり運氣も減衰します。

有り体に言えば生物的な全パラメータが下がり「種として劣等になる」というわけですわね。

(人間関係においても、いつも奢ってもらおう画策するセコイ人間がどんどんとみすぼらしく見えてきたり器が小さく見えるのは、この仕組みが作用しているからですね)

今話した内容はすこし極端な例ですが「ギブ・アンド・テイクの感覚を忘れて貰いすぎると、種としての能力が低くなり弱くなる」ということだけは重要事項として覚えておいてくださいな。

ポイント 1 :

「タダ乗り」や「タダで得たものに対して辛口で論評したり攻撃する」のはセルフイメージにとっては致命的で、ゆらぎ様がココロマスターサイドS4巻で仰られたように「潜在意識は自他の区別がつけられない」ので、タダで得たものに対して攻撃したり断罪したり無価値だと断じるのは、それすなわち「自分自身を無価値だと断じている」のと同じですわ。

こうしたケースでは最低限敬意を示すか感謝を示すか、他の何かを与えたり、他人を助けることでバランスを取る行為は有効ですわね。

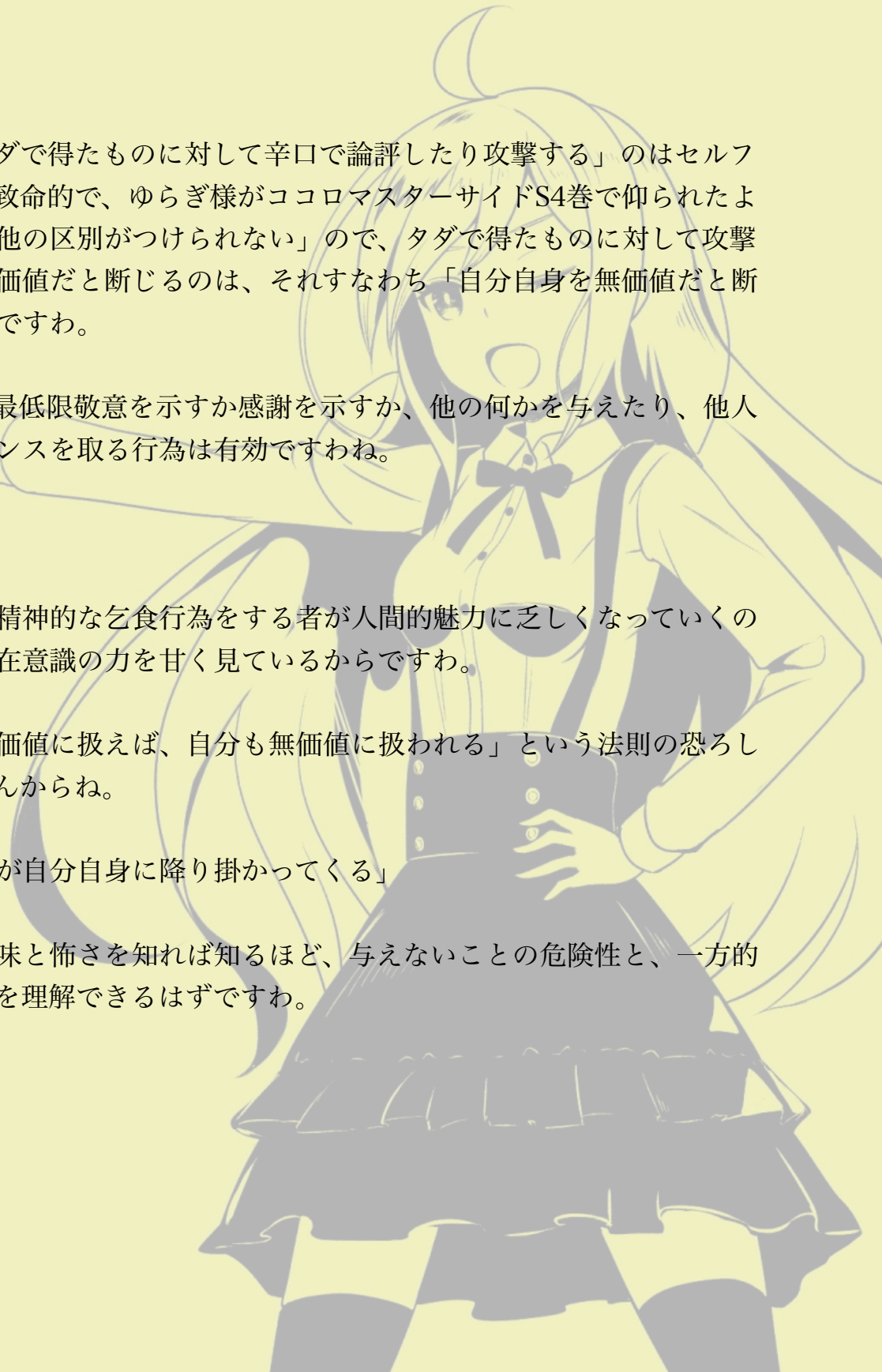
ポイント 2 :

物理的な乞食行為や精神的な乞食行為をする者が人間的魅力に乏しくなっていくのは、ひとえにこの潜在意識の力を甘く見ているからですわ。

一般人は「他人を無価値に扱えば、自分も無価値に扱われる」という法則の恐ろしさを理解していませんからね。

「自分が行った行為が自分自身に降り掛かってくる」

この仕組みの真の意味と怖さを知れば知るほど、与えないことの危険性と、一方的に貰いすぎる危険性を理解できるはずですわ。



■与えるイメージ

成功学では「与えたものが何倍にもなって戻ってくるイメージ」をすることを推奨していますわ。

例えばお金なら自分が支払ったお金が仲間を引き連れて何倍にもなって返ってくる。

自分が買った仕事の機材が自分の仕事の効率性を高め、豊かな富を生み出す源泉になる。

自分に投資した費用、例えばスポーツジムの費用や購入した書籍、参加したセミナーなど、あなた自身を高めるための投資が、あなたを更に大きく成長させていき、その結果として大きな富や豊かさを生み出していく…などですわね。

与える行為に慣れていない場合は、まずはこれらのイメージを行い「与えることは一方的に出す行為ではなく、巡り巡って自分も豊かになる行為だ」という考えを養うと良いですわね。

■なぜ与えると良いのか？

これは行為がセルフイメージと直結しているからですわ。

簡単に言えば、与えられるということは「持っていることの証明」です。

持っているから与えることが出来ます。

潜在意識的に言えば「持っているから与えられる。つまり私は凄いし豊かだ」というセルフイメージに繋がるわけですね。

こうした豊かなイメージが発信されるから、結果的に引き寄せの法則よろしく豊かさが寄ってきます。

ですが貰っているばかりいると潜在意識は貧しさを自覚していきます。

つまり「貰ってばかりなのは持っていないからだ」と理解するわけですね。

これはセルフイメージ的には危険です。

例えば勉強しかできない官僚が、国のお金でいかがわしい店で豪遊して、国民を見下すような発言をしたとしましょう。

これも「貰ってばかりの貧しい思考形態が極まり、頭がおかしくなった状態」の1つですわね。

他人や組織の金で豪遊しても、それは本当の豊かさではありませんし、どんなに言葉で飾り立てようと本人はそれを自覚していますし、自身の無能や無力感を自覚しています。

少なくとも本当に豊かな心を持っていて自分に自信がある者でしたら、自分を豊かにしてくれる国民の血税やシステムに感謝することはあっても見下す行動は出来ませんし、そもそもそんなお店でお金を使っておべんちゃらを言われるような虚しい行為に興じません。

つまりこれは、あまりにも一方的に貰いすぎて、他者に返していないために「精神的な借金」で首が回らなくなり、逆ギレして国民を見下し怒りを向ける行動でしか未熟な自分を誤魔化せなかったわけですね。

あなたのような変わり種はそんなことはないでしょうが、普通人は道理を知らず精神的に未熟な者も多く、バランスをあまり重視していませんからね。無知なために結果的に大きな破綻を経験する一般人はとても多いと言えますわ。

このあたりの「感情のリソース概念」や「エネルギーの貸し借り」という高等概念に関しましてはエネルギーを扱う技法。

ファルミシエル様の死神技法で詳しく話していますので興味があれば参考にしてくださいな。

http://www.dlsite.com/home/work/=/product_id/RJ172425.html



■与えるものの一例

これは与えるものの一例ですわね。

知識の力：知恵や情報、技術など

物質的な力：物やお金、時間や労力など

感情や心の力：優しさ、思いやり、気遣い、愛情、友情、親密さ、友好、好意や厚意など

世間一般的に言うと、貧しい段階においては物質的な力が一番ありがたく感じるものですが、これがある程度段階が進み豊かになると知識の力の凄さと素晴らしさに気づき、富裕層になればなるほど感情や心の力を欲するパターンが多いですわね。

これはなぜかという、人の心や尊敬は品性が下劣だと買うことが出来ないからですわ。

富裕層の中でもこうした力の仕組みをよくわかっている層の人間は他者に優しく気遣いが丁寧に見えるのは、この「感情や心の力」を強く欲しているのと、その力の凄さや意味を深く理解しているからですわ。

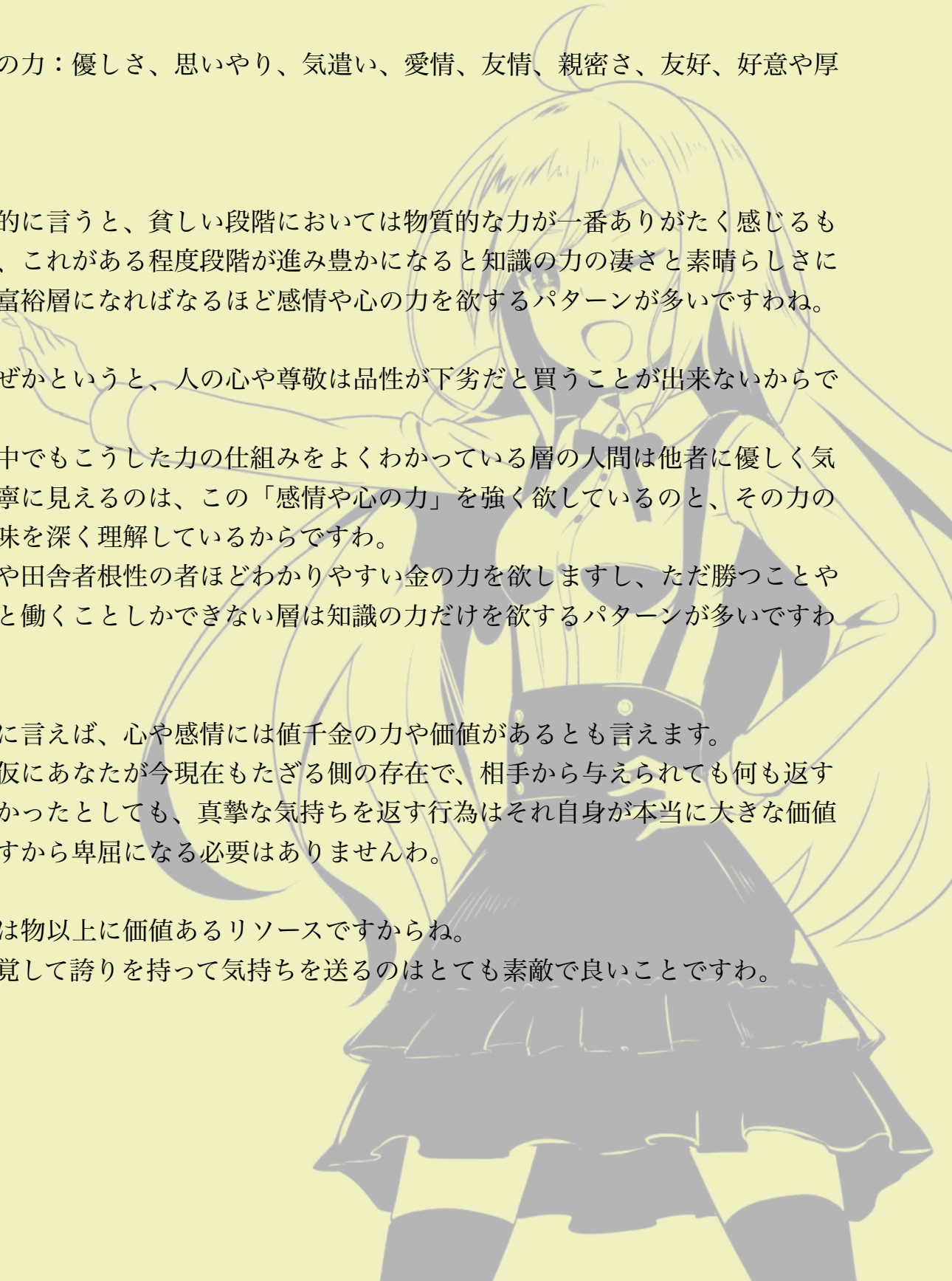
逆に成金や田舎者根性の者ほどわかりやすい金の力を欲しますし、ただ勝つことやバリバリと働くことしかできない層は知識の力だけを欲するパターンが多いですわね。

これは逆に言えば、心や感情には値千金の力や価値があるとも言えます。

だから、仮にあなたが今現在もたざる側の存在で、相手から与えられても何も返すものがなかったとしても、真摯な気持ちを返す行為はそれ自身が本当に大きな価値を持ちますから卑屈になる必要はありませんわ。

心や感情は物以上に価値あるリソースですからね。

それを自覚して誇りを持って気持ちを送るのはとても素敵で良いことですわ。



■与える物を鮮明かつリアルにイメージする必要性

株のシミュレーションゲームで高い成績をあげられるトレーダーが実際の株式相場と同じ成績を残せるかというと、必ずしもそうではありません。

これは実際の生データによる違い等もありますが、一番大きな違いは「仮想の通貨のため現実感がないから」と言えますわ。

現実ではないから破産も怖くないので大胆な手が打てる。

しかしこれが「現実の自分のお金」になった瞬間、失う恐怖や不安が生まれ、ゲームのように大胆な手が打てなくなります。

これと同じで、こうしたイメージトレーニングは他人事やゲーム感覚では効果を発揮しません。

本物のナマ感覚を持ちながら行わなければ意味が無いということですわね。

こうしたナマのリアルさを生み出すためのコツは、出来るだけ「自分に関係のある物」を使ってイメージを行うことですわね。

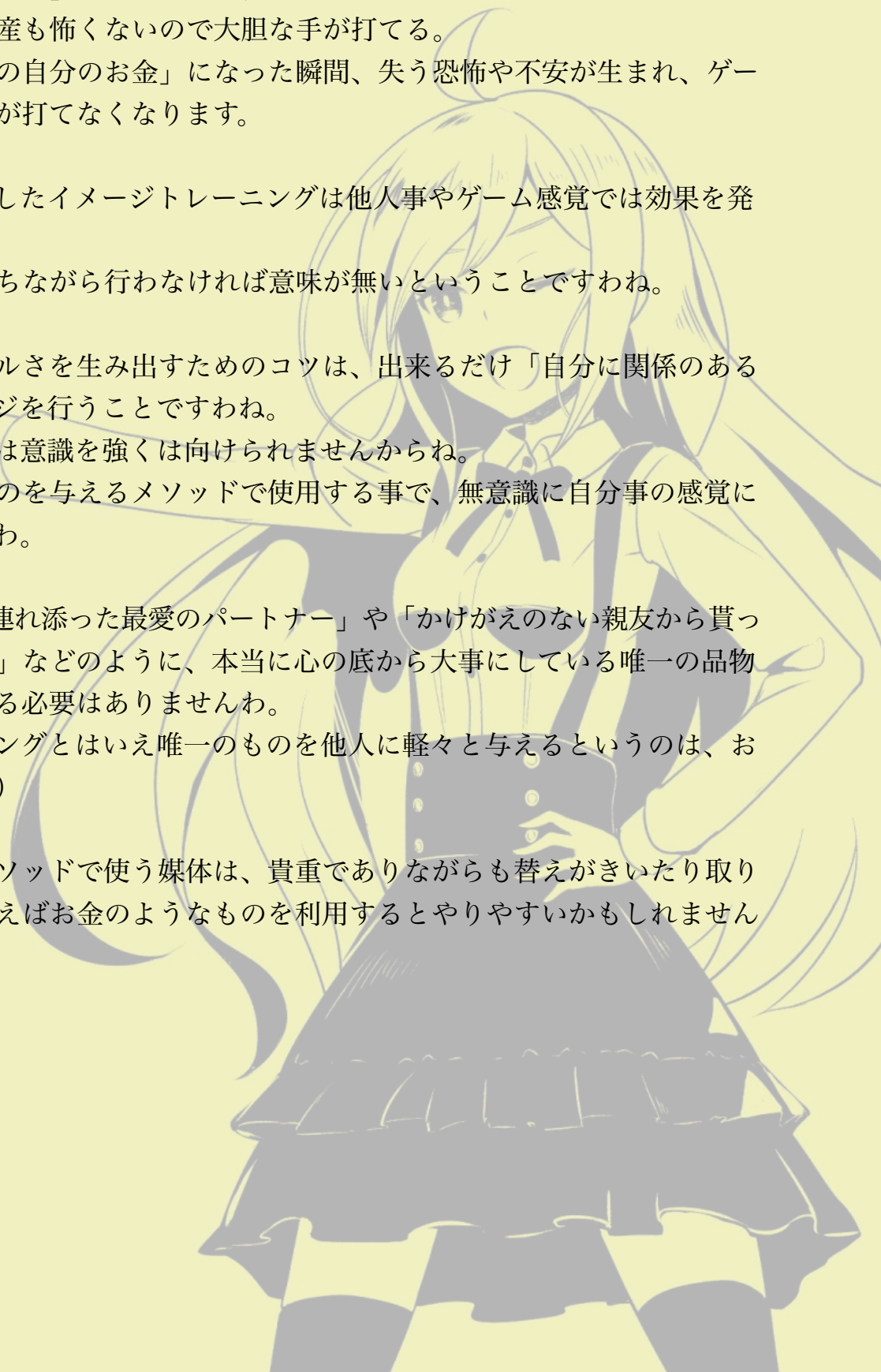
人は他人事に対しては意識を強くは向けられませんからね。

自分に関係の深いものを与えるメソッドで使用する事で、無意識に自分事感覚にしていけるわけですね。

とは言っても「長年連れ添った最愛のパートナー」や「かけがえのない親友から貰った友情の証の腕時計」などのように、本当に心の底から大事にしている唯一の品物や存在を他人に与える必要はありませんわ。

（イメージトレーニングとはいえ唯一のものを他人に軽々と与えるというのは、おかしい話ですからね）

ですからこうしたメソッドで使う媒体は、貴重でありながらも替えがきいたり取り返しがつく存在…例えばお金のようなものを利用するとやりやすいかもしれませんわね。



■与えてもいいものだけ与える

潜在意識的に言えば、惜しいと感じるものは与えない方がいいですわね。
ですが与えてもいいと感じるものなら惜しみなく与えていきましょう。

もちろん与える物は相手にとって有益なものである必要があります。
間違ってもゴミを押し付けてはいけません。

■プレゼントを演出する

友人や知人に素敵なプレゼントをする時にも、出来ればアクセントやスパイスとして演出をするのも一興ですわ。

例えば知り合ってから一周年の記念。

誕生日。

素敵な映画を見に行ったことをツイートしてくれたお礼など。

理由は何でも構いませんので、一つの節目や記念の時にあなたの思いのこもったプレゼントを送ることで貰う側はより一層プレゼントを印象と記憶に残し感激するはずですわ。

送る側も楽しく、受け取る側もサプライズに感激して嬉しい。

そして受け取る側がとても感動してくれたら、送る側もさらに楽しく嬉しい。

Win-Winの関係ですわね。

